

匝瑳市教育委員会平成24年7月定例会会議録

匝瑳市議会棟第2委員会室

1 期 日 7月20日(金) 開会 午後3時00分 閉会 午後4時30分

2 出席委員 委員長 川内 恵美子 委員 熱田 利和
委員 平山 延樹 委員 竹澤 実
教育長 池田 竹四

3 出席職員 学校教育課長 吉川 昇 生涯学習課長 佐藤 和
公民館長 今井 嘉則 図書館長 横町 昌之
給食室長 岩澤 薫

4 委員長挨拶

皆さんこんにちは。ただいまから7月の定例教育委員会を開催します。今朝の新聞を見ると、ロンドンは真夏なのに寒くて毎日12度から20度の間だそうです。九州地方も今までに経験した事がない大雨が続き、今日もまた雨が降っているようです。地球のいたる所が痛めつけられているような気がします。さて、テレビを見ているといろいろなニュースが報道されています。大津市の自殺、いじめ問題が大きく取り上げられており、私たち教育委員会の教訓として今後生かさなければならぬと思います。明るいニュースとしては、ヒッグス粒子の発見がありました。新聞をよく読んでも解らず、物理の先生にお聞きしたところ、100年前にアインシュタインが相対性理論を発見した時も何に使うか分からなかったが、今は太陽光関係に利用されており、このヒッグス粒子も100年経たないうちに誰かが利用するのではないかという説明をしていただきました。また、新聞では船橋市の教育委員会が小学校6年生と中学校3年生を対象に、算数と数学のチャンピオンを選ぶという初の試みをするというニュースが出ておりました。科学に興味を持つ子どもたちがたくさん増えてくれたら良いと思います。匝瑳市教育委員会では、先だって豊栄小学校と野栄中学校の校舎改築工事の起工式に参列させて頂きました。未来を託す子どもたちが、新しい校舎で健やかに成長してくれたら良いと思います。本日の議案事項は1件でございます。よろしくご審議くださるようお願いいたします。

5 前回会議録の承認(前、6月定例会分)

川内 恵美子 委員長
熱田 利和 委員

6 議事録署名人選出(本、7月定例会分)

川内 恵美子 委員長

平山 延樹 委員

7 現況報告及び当面の方針

資料に基づき、各課館室長が6月1日から6月30日までの現況報告及び当面の方針について説明があった。

竹澤委員 今、社会を席卷しているいじめ問題ですが、昼のニュースで平野文科相が全国の小中学校に対して実態調査を7月中に行うという記者会見をしていた。匝瑳市の場合は、教育相談体制としてスクールカウンセラーなどを置き、非常に充実して子どもたちに関わるような対策を取っていますので、深刻ないじめ問題は発生していないと思うが、これまで市教育委員会として把握しているなかで深刻ないじめ問題へ発展しているものはあるのか。

学校教育課長 現状で深刻ないじめ問題になっている報告はない。昨年度のまとめでは、実際にいじめがあると答えた小学校が4校、中学校3校すべてである。件数では、小学校は13件、中学校は13件、いちばん多いのはひやかし、からかいである。小学校では、仲間外れ、無視、軽くたたかれたり蹴られたりが1件あった。中学校はひやかし、からかいが多く、軽くたたかれたり、無視が4件、仲間はずれ無視が1件、強くたたかれたり蹴られたりが1件、お金の強要が1件、金品のたかりが1件という具体的な報告がある。昨年3月31日現在で解決しているものが72パーセント、継続中が28パーセントということで報告されている。今年度も4月から7月20日まで段階で調査しており、8月2日に報告される予定である。次回の教育委員会では具体的に内容を報告できる。生徒指導部会では深刻ないじめのケースはなく、それぞれの学校で大事にならない前に対応して成果が上がっている状況だ。

竹澤委員 大津市の事件では、子ども自らが親や教師へ訴えることが出来ないということで自殺という最悪な事態となってしまった。大津市の教育委員会の対応と機能だが、草加市では中学生が飛び降り強要されてけがをしたことをいじめに関係する事件、事故だとしており、判断の仕方がだいぶ違っている。そういう最近の状況からすると、いじめは今まで文部科学省が言ってきたように、いつでも、どこでも、誰にでも起こり得るということで、発生件数が多い、少ないということではない。早期発見し、個人で対応するのではなく、組織的にスクールカウンセラーなどを十分に生かしながら対応してもらいたい。いじめが深刻な状況にならないような先手の対応を是非お願いしたい。

学校教育課長 いじめの定義がよく言われるが、基本的に匝瑳市の校長会の考え方としては、本人がいじめと言っている場合はいじめであるととらえている。第三者が見てけんかではないかという判断はしない。子どもがいじめられていると言った場合はいじめだと受け取っている。実際には担任だけではなく、いろいろな先生に話が持っていけるような人間関係を学校で作ってもらっている。今回の事件のように担任が見て見ぬふりをしたため、子どもが何回も訴えたのに取り上げなかったということは匝瑳市では考えられない。教育相談習慣がきちんとしており、教育相談の前に必ずアンケートをして、それをスクールカウンセラーに良くみてもらい、これは少しあぶないからすぐ呼んだ方が良いというアドバイスももらう対応をしている。委員のおっしゃる早期発見、早期相談、早期対応という部分では動いていると考えている。

竹澤委員 大津市の事件でいちばん気になるのは加害性、いじめをしているという認識がない。ふざけて遊んでいると加害者は思っている。自殺した生徒は長い時間深刻に悩んでおり、まわりで見ている子どもたちもそれはいじめだと思っていたわけだが、結局、大津市の中学校の教師集団がどう対応しているかが解らない。教師の姿が見えない。基本的には教師が子どものそういう状態を見て早く対応する。子どもの訴えを待っていてはもう手遅れだということだ。夏休み中、夏休み以降が生徒指導で問題が起こる可能性が高いので、力を入れて指導してもらいたい。

学校教育課長 8月17日に市内校長園長会議がある。長期の休み中に子どもたちの交友関係、人間関係が変化する。それが起因となり、いじめに発展するケースが8月以降考えられる。それらも含めて校長会で議題としたい。

平山委員 いまの話を聞いていると、いじめとか、子どもたちに好ましくないようなこと、これらを未然に防ぐことがいちばんの危機管理だと考える。確か2年前に浦安で県市町村教育委員会連絡協議会主催の学校教育における危機管理というテーマで研修があった。教育委員会を対象にした講演であったためか、危機があった場合、報道陣には何分後に記者会見を開く、場所はどこにするなど、私からすれば未然に防ぐのがいちばんの危機管理だと考えるのとは関わらずに、そういう自分たちの立場を守ることを一生懸命に話されていた。そういうことが私には腑に落ちなかった。危機管理のなかには、確かに対処の仕方と再発防止があると思うが、やはり今のお話のとおり、いちばんの危機管理は未然防止だと考える。先生方は学校のなかで未然に防げるように努力されていると思うが、またここで気を引き締めて努力していただきたい。

熱田委員 委員のお話のとおり、講演は起きた時の対応の仕方であった。教師が隠す、いじめを上司に伝えると指導力がないからいじめが起きると判断されるのを恐れて塞いでしまう。これがいちばん問題である。毎日、子どもたちと接していると状態が良く解る、ちょっとした変化に気づいた時に自分一人だけの見方ではなく、組織で伝えて対応できるようにする。1ヶ月に1回の状況報告、変化が激しい時にはすぐに会合を持って、言えるようにする。今の体質は、いじめがあった場合は指導力がないと思われる体質ではないかと思われる。最初の芽が出た時に見つけることが大事であり、問題はそれをどう対処していくかということである。教育委員会として、このような問題が発生した時に私たちがどのように取り組んでいったら良いのか、今回のいじめ問題で強く感じている。

教育長 みなさんからお話を頂いた。学校では個人の責任ではなく、学校全体という体制でやっている。中学校だと毎週生徒指導部会があり、お互いに報告をしながら全体の把握をしている。職員会議や朝の打ち合わせでも情報交換や話し合いをするなど、全体のなかで組織としてやっており、その点では安心できると思う。ただし、気づくということは簡単に言うがなかなか難しい。個人個人のなかで研修を積みながらあたっていかなければならない部分もある。包み隠さず、お互いに報告しながら全体が子どもたちを見守っていく形を校長会を通じて話している。教育委員会としても頑張っていきたいと思う。御協力をお願いしたい。

川内委員長 子どもたちは巧妙にいじめをするのでなかなか気付かない。いじめられる子もなかなか相談できない。先生方が忙し過ぎて生徒のそばに居られないということを知っている。なるべく長く生徒といて観察してくれたら気が付く事も多いと考える。仕事を減らす工夫をするなど、なるべく生徒と一緒にいる時間を作って頂きたい。

竹澤委員 去年のいじめの72パーセントが解消している、28パーセントが継続して取り組んでいるという報告があった。匝瑳市では、中学校すべてにスクールカウンセラーが配置されている。スクールカウンセラーに相談されている件数は把握されているのか。そのなかでいじめに係わる件数もわかるのか。

学校教育課長 件数については月毎の報告がある。スクールカウンセラーが保護者、生徒、教師からどのくらい相談を受けているか校長は把握しており、教育委員会にも報告される。今、手元に資料がないため確認できないが、いじめに関するものも当然記録されており、スクールカウンセラーへの相談件数についても先程の件数のなかに入っている。

熱田委員 問題がある場合、スクールカウンセラーに相談に行く前に教師がどう対応しているのか。子どもたちの登下校の見守りをしている時の体験だが、ひとりの子どもをみんなで冷やかしているのを見た上級生が、「言われている人の気持ちを考えなさい。」と注意している場面があった。たぶん、普段の道德教育のことを実行に移したのではないかと思った。常日頃の道德教育も大事だし、大げさになる前に子どもたちが言いやすいように間口を大きく持って、受け取った先生もそれとなく聞けるような体制が必要である。いじめになる前に未然に防止する細やかな心を育てていかなければならない。悪い事ばかりでなく良い事もあれば先生へも伝えてもらいたい。

学校教育課長 委員のおっしゃるとおり間口を広げている。そのひとつがスクールカウンセラーである。現状では担任がすぐ解るのが望ましいが、人間関係上うまくいかない場合も現実にはある。担任に相談できない場合、隣の担任、学年主任、部活の顧問でも良い。そのなかのひとつとしてスクールカウンセラー、心の教室相談員がある。いろんな間口を学校で広げていって、そこからあがってくる情報が子どもを救っていく。そういった考え方で動いている。間口として、友達もいるし、隣のおじさんが心配して電話をくれたこともあり、地域でも見てくれている。いじめは私たちの目に見えないように行われている。いろいろなところから情報が上がってくる信頼関係を作っていないと子どもが最後は追い込まれてしまう。そのひとつの窓口としてのスクールカウンセラーということで理解して頂きたい。

(その他質問等はなかった。)

9 議案事項

議案第1号 平成25年度使用小中学校教科用図書及び附則9条教科用図書の採択について(案)

(学校教育課長から説明があり、審議の結果、可決された。)

10 その他

○学校教育課長から市内幼・小中学校運動会(体育祭)の出席者について連絡があった。

○学校教育課長から、8月定例教育委員会の日程について第1案8月23日(木)第2案8月21日(火)が提案され、第1案に決定された。